

家に帰ってこれなくなった

—短期記憶障害、見当識障害への対応

認知症
しち・はち・きゅう
789
みんなであそんで
試して
学んで

家に帰って
これなくなった



認太郎…主人公 (認知症)



知子…嫁

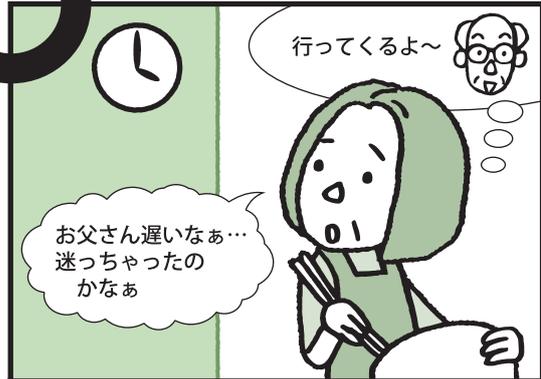


認太…息子

認左衛門
…認太郎一家のご先祖
守り神、お助けマン



道に迷うのは忘れたり、体調の変化だったり、いろいろじゃ



ご近所さんとは仲良くしておくもんじゃなく



見守りがあれば外出はできるんじやよ



*いつもうまくいくわけではありません。

家に帰ってこれなくなった

—短期記憶障害、見当識障害への対応



中核症状(必ず現れる症状):短期記憶障害、見当識障害

認知症状が進行すると、短期記憶の障害から、やろうとしていたことや自分がこの場所にいる目的を忘れてしまったり、見当識障害によって、今どこにいるかわからなくなってしまい、迷子になることがあります。

実際には自宅のすぐ近所にも、知らない場所にいる感覚になり、不安でいっぱいになってしまいます。そこからただちに逃れたいがために、知っている場所や安心できる場所を探し求めて歩く姿が、周りには「徘徊」しているように見えるのです。

このような状況の時、本人には「何か目的がある」ということを理解しましょう。そして、本人が一番不安に感じているので、まずは安心できるような声掛けをすることを心がけましょう。

このケースのポイント

どうすればいい?

対応法 ①

「一緒に帰りましょう」と声を掛け、近所を散歩してくる。



対応法 ②

事前に、よく立ち寄る所の方や近所の方に「見かけたら教えてください」と伝えておきましょう。



対応法 ③

行政や民間の会社でサービスとして提供しているGPS機器を利用するのも一つです。



代表的な認知症状である「短期記憶障害」、「見当識障害」により、外出の目的を忘れて、今自分が置かれている状況のあたりがつけられなくなります。

私たちが知らない場所で一人きりだったら不安ですが、認知症の方は常にそのような状況にあるので、その不安は相当なものです。歩き回るといふ行動には、「今の状況がわからないという不安から逃れるため、馴染みの場所や落ち着く場所、既知の場所を探し求めている」という意味があるのです。しかし、目的を忘れ、見当識の障害により建物や風景、道順などが認識できず、道に迷う。すると、さらに不安になり、焦り、余計に混乱するという悪循環に陥ります。気づいたら、「徘徊」しているように周りからは見えるのです。

そのような行動の背景を十分に理解し、不安に寄り添うことが大切です。外出時は一緒に付き添ったり、ご近所やよく行く場所の方に「見かけたら教えてください」と声を掛けておき、外に出てしまっても本人がどこにいるか複数の目で把握できるようにしておくといふでしょう。持物や服には名前と連絡先を記入しましょう。市や民間にはGPSの貸出サービスもありますので、上手に利用するのも手です。

医師からのアドバイス



— ふたば内科クリニック 荒木 誠 (もの忘れ相談医)

これなくなくなった
家に帰って